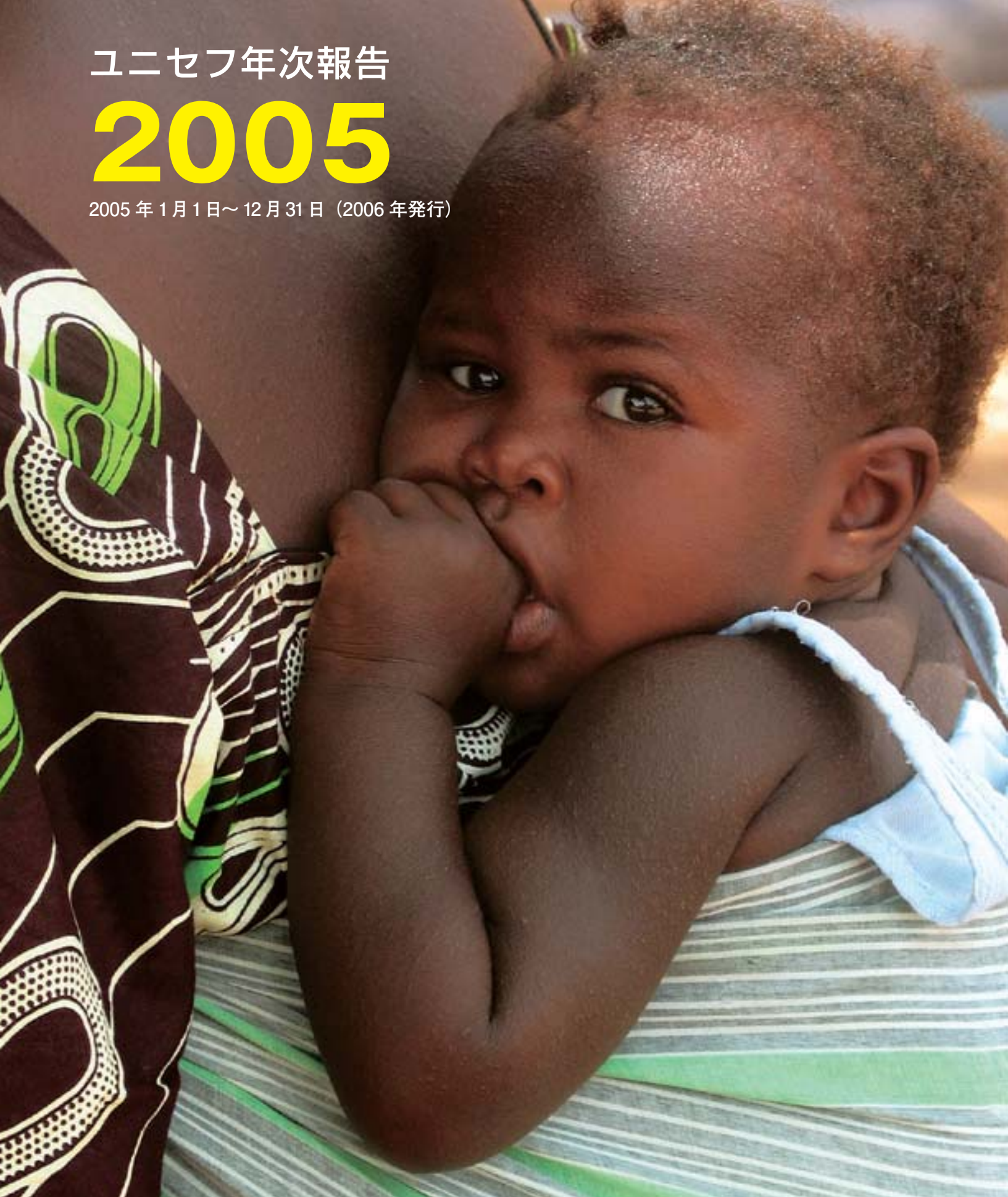


ユニセフ年次報告

2005

2005年1月1日～12月31日（2006年発行）



1946 - 2006
UNITE FOR CHILDREN

unicef

ユニセフ 年次報告 2005

2005年1月1日～2005年12月31日

目次

1. はじめに

アン・M・ベネマン
ユニセフ事務局長

2. 今年度を振り返って 2005年：楽観視できる事例、緊急性を要する事例

子どもたちの生活を改善し、ミレニアム開発目標を達成するために緊急に行動を起こす必要があることに変わりはない。しかし、2005年の主要な成果は進むべき道筋を指し示している。

26. 増加する資源を上手に管理： 管理・運営、業務と財政（2005年）

40. (財)日本ユニセフ協会 2005年度の活動 2005年4月1日～2006年3月31日

パネル

- 4. 包括的なプログラムがもたらすさらなる成果
- 6. シス・サマラクシャク
ハイテク・インドと農村部の貧しい人々の間を結ぶ
- 8. 緊急支援：ニジェール
- 12. 緊急支援：スマトラ沖地震・津波
- 15. ユニセフ国内委員会、子どもたちのための連携
- 17. 緊急支援：パキスタン地震
- 20. 協力の推進：イスラム世界の子どもたちのために
- 21. 民間企業：子どものために資源を確保し、拡大する
- 24. 緊急支援：スーダン



はじめに

2005年、世界のリーダーたちがニューヨークに集まり、ミレニアム開発目標の達成に向けて努力することを再確認した。このとき、世界の指導者たちは、子どもたちとの約束をも新たにしたのである。

ユニセフもまたこれに呼応し、子どもたちのためにさらなる成果を、より有効な形で、より体系的に、より効率的に達成するよう努力することを再確認した。これは、ひとつには、国連改革（ユニセフはその中でも主導的な立場にある）を通して成し遂げることができる。国連改革は、国連機関同士の活動を調整することによって、それぞれの成果が相乗効果をもたらすようにしようとするものである。

ユニセフの資金は年々増大しつづけており、こうした資金をより効率的に使用・管理することで、ユニセフの活動の効率も同時に高まる。2005年は、2004年に比べ、収支ベースで40%近くも多くの金額を取り扱っているが、管理運営費や事業支援費の上昇は7%に抑え込むことに成功している。

この1年、ユニセフは157の国と地域で子どもとその家族のために数々の支援事業を実施してきた。これらの活動は、ミレニアム開発目標と、その礎となるミレニアム宣言達成のために、同様に力を注ぐパートナー機関とともに取り組んできたものである。

新しいパートナーシップとして始まったものや、昔からの連携をさらに強化したものもある。すべては子どものため——その命を守り、母親や家族を支援し、子どもが学校に通って勉学を続けられるよう支援するとともに、HIV/エイズやマラリアなどの病気と闘い、餓えと貧困を減らすことを共通の目標としている。

これらの努力は実を結びつつある。困難な状況にある国々がミレニアム開発目標に近づきつつあることや、あるいは子どもとその家族がより健康になり、より安定した生活ができるようになりつつあることを示す成果もたらされているのだ。しかし、大切なのはこうした気運を作り出し、維持することであり、こうした緊急性こそが私たちを突き動かすのである。

2005年の成果にもとづいて、私たちは未来を楽観的に捉えつつも、同時にまた、多くの子どもたちが未だに私たちの力を必要とし、自分たちが影響を受ける諸問題の解決に向けた我々の努力を待っていることも忘れてはならない。

ユニセフ事務局長
アン・M・ベネマン